様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　４ 年　６ 月 ２２ 日現在

機関番号：１４３０１
研究種目：基盤研究(S)
研究期間：2016～2020
課題番号：１６Ｈ０６３０１

研究課題名（和文）心の自立性の獲得－環境から解放された心の進化と発達

研究課題名（英文）Acquisition of the independence of mind: Evolution and development of the mind liberated from the current external environments

研究代表者
藤田　和生（Fujita, Kazuo）

京都大学・文学研究科・名誉教授

研究者番号：８０１８３１０１

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　142,900,000円

研究成果の概要（和文）：ヒトは心的表象を自在に操作することで、思考し、未来に備え、他者の心を想うことができる。本研究では、このような場所や時間に限定されない心的表象操作としての「心の自立性」を多様な動物種で検討した。その結果、未来に自身を投影する能力の種差は大きく、ヒトでも5歳以上で達成できること、チンパンジーが他者の誤信念を理解している可能性があること、霊長類・伴侶動物では他者理解に自己経験が影響することなどを明らかにした。これらの成果は、心の自立性の萌芽的能力がヒト以外の動物種にも備わっていることを示すものである。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究では、独創的な研究手法を用いることで、多様な動物種や若齢の乳幼児も心的表象を操作し、環境を理解し、自己を理解し、他者を理解することを明らかにした。萌芽的な能力であれ、「心の自立性」が霊長類をはじめとする種々の動物にも分有されているという事実は、ヒト観を刷新するものとなり、動物への理解と愛情を育み、地球化時代の新たな人類の行動指針を呈示するものである。また、その発達過程を明らかにしたことは、適切な子育てへの提言ともなる。

研究成果の概要（英文）：Humans can freely manipulate mental representations, to think about reasons, prepare for the future, and think about others. In this study, we examined "mental independence," the ability to manipulate mental representations not limited to space and time, in various animal species. The results revealed that: 1) The ability to project oneself into the future situation is quite different between species, and humans over five years of age can achieve this; 2) chimpanzees may understand the false beliefs of others; 3) in primates and companion animals, the experience of self influences the understanding of others' experiences. These results indicate that the emergent capacity for mental independence is also present in non-human animal species.

研究分野：比較認知心理学

キーワード：比較認知　比較認知発達　進化　思考　心的表象操作　メタ認知　他者理解

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

近年、ヒト独自であると考えられてきた数々の心的機能の萌芽が、必ずしもヒトの近縁とは言えない動物種にも分有されていることが明らかにされてきた。例えば、新世界ザルに属するフサオマキザルは、競合場面で他個体を欺き（Fujitaet al. 2002)、他個体と協力して報酬を獲得し（Hattori et al.2005)、低順位の個体に高価値報酬を分配し（Takimoto et al. 2010)、他個体の労力に合わせた報酬配分を行う（Takimoto & Fujita 2011)。さらには、他者間の社会的やり取りを観察することによって、第三者的立場から他者を社会的に評価する（Anderson et al. 2013)。また、自身の記憶痕跡の強度をメタ認知し、それに応じて適切に課題を選択することもできる（Fujita 2009)。こうした高度な機能は霊長類だけではなく、他の系統種にもみられる。例えば、イヌも飼い主に協力しない人物を避けるという第三者評価をし（Chijiiwa et al. 2015)、ハトもメタ認知機能を持ち、自身の回答の自信度を認知し（Nakamura et al. 2011)、知識の有無に応じた情報希求をする（Iwasaki et al. 2013)。こうした多様な高次心的機能はいかにして可能になるのか。これらを統一的に理解するカギは、環境から与えられる刺激に縛られることのない、自在な心的表象の操作であると考えられる。

ヒトに見られる心的表象操作は、現在の環境から離れて大規模な時空間上で自在に行われ、過去の記憶を心の中で再現し、未来を想像する。これを他者にも適用し、心の理論と言われる他者理解へと発展させる。こうした現在の環境から切り離して自由に心的表象を操作できる能力、「心の自立性」こそが、ヒトと他の動物を分ける決定的な違いかもしれない。近年の飛躍的に発展した比較認知科学における研究成果から、ヒトとヒト以外の動物の心的連続性が次々に示されてきている。しかし、それらの情報は断片的であり、ヒトのもつ「心の自立性」が進化の過程でいかに発生したのか、それはヒト独自のものなのかという問いには、明確に回答を得ることができていない。

２．研究の目的

本研究の目的は、ヒトが持つ時空間を超えて自在に思考する能力を「心の自立性」と呼び、その進化と発達の過程を、広範な種比較と発達比較を通じて実証的に明らかにすることである。具体的には、（１）心的表象の自在な意識的変換を、多様な行動課題における思考や推理能力を通じて調べ、（２）自身の認知状態を監視し行動を制御するメタ認知能力や、過去や未来に自身を投影する心的時間旅行の能力を検討し、（３）これらの応用的利用と位置づけられる他者理解や社会的知性、及び心の理論に関する実証的な資料を、行動実験と行動観察により組織的に収集する。これらの結果をヒトを含む多様な動物種間で比較することで、「心の自立性」の進化・発達過程を明らかにする。

３．研究の方法

ヒトと近縁の霊長類種のみならず広範な動物種を対象として、上記の目的で示した（１）思考や推論能力、（２）メタ認知や心的時間旅行、（３）それらの応用的利用としての他者理解や社会的知性、及び心の理論に関する多様な行動実験や行動観察を実施した。具体的な実験手続きに関しては、当該の動物種に応じて柔軟に調整しながら執り行った。

４．研究成果

外界を写した心的表象を操作するためには、物理事象を正しく理解した予測や論理的推論を行えることが前提となる。本項目の課題では、これらの能力を、これまでの研究を補完する様々な動物種で検討した。

（１）心的表象の自在な意識的変換を必要とする課題解決－思考・推理

①　ネコにおける飼い主の声を利用した物理的法則の理解

ネコにおける物理法則の理解を調べるために、1部屋の異なる場所に配置した2つのスピーカーの一方から、飼い主の声を再生した直後に他方のスピーカーからも同じ飼い主の声を再生した。これに対してネコは驚く反応を見せたことから、人が瞬時に移動することは物理的にはあり得ず、ネコが物理的法則に従う予測に基づいた理解をしていることが示唆された（Takagi, et al. 2021)。

②　ネコにおける因果理解の検討

先の実験と同様、ネコにおける物理法則の理解を調べるために、ヒト実験者が箱を振ってガラガラと音がするにも関わらず、その箱をひっくり返した時に物体が落下しない場合など、期待違反が生じる場面を呈示した。結果、ネコの注視時間が増加し、物理法則に従った推理をすることが示唆された（Takagi、 et al. 2016)。本成果は国内外のメディアにおいて多く注目を集めた。

③　イヌとネコにおける排他的推論能力の検討

上記の結果で、基礎的な物理法則の理解の能力は示されたが、伴侶動物であるイヌは、ヒトの指差しや視線、表情などの社会的信号に過剰に引きつけられ、しばしば物理的事象の判断を誤ることが報告されている（Marshall- Pescini et al.2011)。本研究では、イヌとネコを対象に、被験体に 1 個ずつ餌の入った皿を２つ見せ、ヒト演技者が一方の皿から餌を取り出して食べる

動作を見せた後、被験体がどちらの餌皿を選択するか調べた。結果、ネコもイヌと同程度にヒトが食べた後の皿を訪れた。これはイヌのような積極的な人為選択を進化の過程で受けていないネコでも、ヒトの動作に引き寄せられて物理事象の判断を誤ることを示した最初の知見である(Chijiiwa, et al. 2021)。この結果は、課題の成績が被験体の物理法則の理解の能力だけでなく、種に固有の選好にも強く影響されることを示すものであり、種ごとの特徴に応じた課題設定の重要性を確認させるものである。

④ ハムスターにおける複数情報利用の柔軟性

一般に、分散貯蔵（Scatter-hoarding）を行う動物種は、集中貯蔵（larder-hoarding）する動物種よりも高い空間記憶能力を有することが示されている。本研究では、集中貯蔵型のハムスターが、報酬の場所を示す複数の手掛かりをどのように利用するかを検討した。結果、ハムスターは特定の視覚手がかり（ビーコン）を利用するよりも、方向情報を利用した餌場探索を行う傾向が強かった。しかし、突如方向情報が使えない場面を経験をすると、複数の情報を柔軟に使用することができるようになった（Betsuyaku, et al. 2021）。この結果は、集中貯蔵型の動物種の空間記憶研究が少ない中、貴重な実証研究の一つであると同時に、適当な場面設定を用いることで能力が発現することを示すものでもある。

⑤ ホンソメワケベラ（魚類）における推移的推論

A＜B＜C であれば、A＜C であるといった推移的推論は哺乳類、鳥類では肯定的な報告があるが、魚類では個体間の社会的順位を用いた推移的推論課題しか行われていない。そこで本研究では５項目の色刺激に対して、報酬の有無による大小関係を、A<B、 B<C、 C<D、 D<E（ペアで提示された刺激のうち、大きい方に相当するものを選択すると報酬が得られる）のように設定し、訓練を行った。その後、新奇なペアであるＢとＤを呈示した結果、Ｄを有意に多く選択した。これは魚類においても推移的推論の萌芽的能力が備わっていることを示唆するものであるが、結果の解釈において交絡要因の検討などが必要であり、今後はそのメカニズムの解明が待たれる（Hotta, et, al. 2020）。

以上、本項目の研究結果から、心的表象操作の基盤となる、物理事象を正しく理解した予測や論理的推論の能力は、多くの種で見られ進化の比較的早い段階から備わっていることが示唆された。また、種固有の特徴や環境要求によってその発現が影響されることも示された。

（２）心的表象の自在な意識的変換を可能にするための要素的機能－メタ認知及び心的時間旅行

① フサオマキザルは自身の記憶痕跡の内容を認知しているのか？

複数の課題を選択する機会を与えられた時に、フサオマキザルがより自信のある課題を選択するかを調べることで、自己の記憶状態に関するメタ認知の能力を調べた。課題では、遅延見本合わせにおいて、見本刺激の What と Where 情報をサルに覚えさせ、両方を解答させる訓練を行った後に、What と Where のどちらを回答したいかを選択させた。結果、自分で問題を選んだときと強制的に問題を与えられたときで、正答率に有意な差は見られなかった。次に、見本呈示から比較刺激呈示までの間に、What か Where のどちらかの記憶を妨害する刺激を呈示し、課題の難易度を操作した。しかし、サルは妨害されていない情報を積極的に使用して解答しようとはしなかった。この結果は、フサオマキザルが自身の記憶痕跡の内容を監視していない可能性を示している（Takagi & Fujita, 2018）。

② フサオマキザルにおける自身の記憶忘却を予期した未来志向的行動

サルが自身の将来の記憶痕跡を予測した準備行動をとることができるか否か検討するため、遅延時間明示型遅延見本合わせ課題を行なった。サルの記憶方略を検討した結果、サルは事前に遅延時間が長いことが告げられた時でも、積極的に見本を記憶したり、リハーサルしたりはしないことが示された(Kishimoto, et al. 2019)。さらに、自身の将来の記憶痕跡を予期して、遅延時間が始まる前に見本刺激再呈示アイコンを使用できるかを検討したが、予告された遅延時間の長さに応じて再呈示を利用する傾向は見られなかった（Kishimoto, al. 2020）。これらの結果はフサオマキザルが自身の将来の記憶痕跡に基づいた予測を行わないことを示唆している。

③ ハトにおける自身の記憶痕跡をもとにした情報希求行動

ハトが「既知の課題が呈示されるとき」と「新規の課題に直面するとき」でヒント希求の仕方を変えるか否かを検討した。結果、4個体中3個体のハトが既知の問題の時よりも新規の問題の時の方が、ヒントをより多く希求した。この結果は、ハトが予見的に自身の知識状態を認識できる（予見的メタ認知）可能性を示すものである（Iwasaki & Fujita, 2018）。

④ ハトにおける展望的記憶

展望的記憶とは、将来に向けて計画した事象を一旦意識から消去しても、適切な場面で想起し、実行することができる記憶を指す。本研究ではハトが、特定の試行毎に登場するボーナス課題に適切に回答することができるかを検討した。ハトの行動特性に応じて、複数の実験手続きを検討したが、いずれにおいてもハトが展望的記憶を持つことを示す結果は得られなかった（Iwasaki, et al. in prep）。先の実験では、ハトが自信の内的状態を予見する可能性は示唆されたが、本実験では刺激呈示という外的状態の予測を行なうという結果は得られなかった。これらの結

果の相違には、対象が内的であるか外的であるかの違いや、予測の時間幅の違いなどが影響したと考えられ、今後の検討課題である。

⑤　ネコにおける偶発的記憶課題

複数の餌箱を訪問させ、そのうち限られた箱でだけ採餌させた後、長い遅延時間をおいて、事前の予告なしに同じ餌箱群を再度探索させると、イヌは先立って食べ残した箱を優先的に訪問することが、我々の先行研究で示されている（Fujita, et al.2012)。本研究では、ネコに対して同様の実験を行った結果、イヌと同様に食べ残した餌箱に優先的に訪問することが示された。これはネコも再訪問の機会に際し、偶発的な記憶を再訪問時に能動的に取り出し利用することができることを示している（Takagi, et al.2017)。

⑥　幼児における将来の必要性を予期した準備行動

幼児が、自信の将来の知識状態を予期した行動を取るかを調べる実験として、実験者が複数の透明または不透明の容器のうち一つにおもちゃを隠し、その間、幼児は覗き穴の開いた部屋で待機する課題を行った。結果、4 歳児は容器の種類に関わらず覗き穴を覗いたが、5 歳児は不透明の時のみ覗き穴を覗いた。次に、おもちゃを透明容器に隠す人と、不透明容器に隠す人をテレビモニターを通して観察できるようにしたところ、5 歳児、6 歳児では不透明容器に隠す人を長く観察した。以上の結果は、5 歳児において、将来の自身の知識状態を認識した上で、必要に応じた準備行動をとることができることを示している（Iwasaki、 et al. 2020)。

以上、本項目の研究結果では、自身の現在の知識状態を認識するメタ認知の能力は萌芽的なものを含めると多くの種で確認できたが、その認知を過去の記憶痕跡や未来に拡大して推測する能力には限界が見られ、ヒト幼児でも５歳児以降にならないと、そのような推測が見られなかった。メタ認知を時間を超えて投影する能力に、動物種間で大きな違いがあることを示唆している。

（３）心的表象の自在な意識的変換の応用的利用－他者理解や社会的知性，心の理論

①　類人猿における他者の誤信念の理解

心の理論のうち他者の信念の理解は、ヒトでも４～５歳頃に発達し、5 歳頃に完成することが示されている（Wellman, et al.2001)。本研究では、類人猿の興味を引くように作成されたストーリー動画を作成し、アイトラッカーを用いて類人猿の視線を計測した。その結果、類人猿も他者の誤信念を理解し、それに応じた行動の予測をすることが明らかとなった。本成果は Science 誌に掲載された（Krupenye, et al. 2016)。

②　チンパンジーにおける自己像認知の理解

鏡による自己認識は現在の自己像を投影しているが、遅延した映像の中に映る自己像は時空を超えた自己概念の存在を示唆する可能性がある。本研究では、チンパンジーの頭部に複数のステッカーをつけ、彼らがそれを取り去るかどうかを調べた。その結果 5 個対中 3 個体が 1 秒から 4 秒の遅延があってもビデオを通して自身の姿が観察しながら自己指向的な行動をとった。この反応は、ヒト 4 歳児以上に匹敵するものである。(Hirata, et al. 2017)。

③　類人猿における自身の経験を通した他者の行動の予測

類人猿における誤信念の理解が、登場人物の心的状態を理解したのか、あるいは単なる行動のパターンを予測した結果かを明らかにするための研究を行った。実験では、見た目は同一だが性質の異なる 2 つの障壁を用意し、類人猿は向こうが透けて見えるトリック障壁か、透けて見えない障壁のいずれかを経験した。その後、誤信念に関わるストーリー動画を見せ、類人猿の視線計測を行った。結果、透けて見えるトリック障壁を経験した類人猿と、見えない障壁を経験した類人猿では、同じ動画を観たにも関わらず、事前の経験（障壁の性質の違い）に応じて異なる反応を示した。これは自己経験が他者理解に利用されていることを示す結果であり、先に示した類人猿による誤信念の理解が心の理論に基づく理解であることを示唆している（Kano, et al. 2019)。

④　類人における直示的コミュニケーションの理解

動画を見ているときの類人の視線をアイトラッキングにより記録した。動画では、ヒト役者が視線手がかりを示す（２つの物体のうち一つを見る）前に直示的なコミュニケーション（名前を呼ぶ、目を合わせるなどして、「何か」を伝えようとする仕草）を示す。ヒト幼児やイヌでは直示的コミュニケーションを見た後により強く視線手がかりに反応することが知られているが、類人では同様の反応が認められなかった。ただし例外的に、ヒトに幼いころから親しんで育ったチンパンジーは役者の目の前の物体（２つとも）をより長く見るなど、直示的コミュニケーションに対して一定の理解を示唆するような視線パターンを示した。これは、ヒトの直時的なコミュニケーションが同種や家畜動物に対する特有のシグナルであることを示唆している(Kano, et al. 2018)。

⑤　フサオマキザルにおける利他行動

フサオマキザルで、他者の利益のためだけに積極的にコストを払う「利他行動」が生起するかを検討した。実験では、フサオマキザルのオス 3 個体を分配者とし、自身のケージに置かれた報酬を、隣のケージのメス個体の受取者に分配するために、ケージの扉の鍵を自発的に開けるか否かを調べたが、分配行動は生起しなかった。次に、自身の報酬は確保した上で、受取者への報酬が入った餌箱の鍵を開けてあげるかを検討した結果、受取者が視線やジェスチャーで強く要求

行動をした際に、餌箱の鍵が開けられる頻度が高くなった。この結果は、チンパンジーで示された先行研究と同様に、ヒト以外の霊長類では、強い援助要求がなければ、他個体の援助行動を引き出すことができないことを示唆している（Bucher, et al. 2021）。

⑥　リスザルにおける不公平感

野生下では協力行動がみられないコモンリスザルを対象に、「不公平嫌悪」が見られるかを検討した。実験は、操作者（リスザル）が自身の報酬と、隣個体（受取者）の報酬が置かれたトレイを引き寄せることによって、両個体が報酬を獲得できる装置を用いて行った。結果、オスは受取者の在・不在、受取者との社会的関係、報酬配分の違いにかかわらず、同じようにトレイを引いたが、メスでは集団外メンバーが受取者となる場合に、トレイを引く頻度が単独条件と比較して有意に低くなった。このような性差が、リスザル一般に見られるものなのか、本研究の被験体集団に特異なものなのかは今後の研究が待たれるが、少なくともメスでは集団外メンバーに対して「不公平嫌悪」を持つ可能性があることがわかった（Bucher, et al.2020）。

⑦　イヌにおける自身の経験を通したヒトの行動の理解

見かけは同じで操作難度の異なる 2 種の装置を用意し、実験者がそれらを操作する様子をイヌに観察させた後、イヌがどちらを選択するかを調べた。事前に操作の難易度に違いがあることを経験させたイヌは、自身の知識をもとにして、ヒトの動作の意味を理解していたことが示唆された。この結果は自身の経験から得た心的表象の投影的利用を示唆する結果である（Kuroshima, et al.2017）。

⑧　乳児における向社会行動を支える基盤

１６ヵ月児を対象に、援助行動と運動発達および社会的インタラクション能力の関係を検討した。まず、視線計測装置を用いて、１６ヵ月児が、援助を必要としている他者と援助を必要としていない他者を弁別できることを確認した。その後、out-of-reach 課題（他者が必要としている物体に手が届かない場面で、その物体を手渡すかどうかなど）と微細運動、粗大運動、および他者との社会的インタラクション能力との関係を調べたところ、これらの能力が援助行動の発達を予測することが示された(Koster, Itakura, Omori, Kartner, 2019)。

⑨　乳児の公平感の発達

１４カ月児を対象に、先行刺激として幾何学図形のエージェントの善悪の振る舞い（黄色の三角形が、坂道を上ろうとしているオレンジ色の円を助けて坂道を押し上げている場面や、青の四角形が妨害してそれを突き落とそうとしている場面など）を呈示し、その後、それぞれのエージェントが、別のエージェントに資源を分配する場面を呈示して、期待違反法により注視時間を調べた。結果、乳児は良い振る舞いをしたエージェントは、資源を公平に分配することを期待していることが示された(Surian, Ueno, Itakura, Merist, 2018)。

以上、本研究項目では、他者理解や社会的知性、心の理論など、その実現に自己や他者の心的表象の自在な操作が要求される課題について検討を行い、チンパンジーが数秒の遅延であれば自己像の認知が可能なこと、他者の誤信念を理解している可能性があること、霊長類・伴侶動物では他者理解に自己経験が影響することなどを明らかにした。また幼児の研究において、他者理解の発達過程を明らかにした。項目２で自己の現在の知識状態のメタ認知能力が多くの種で見られたこととあわせて、本項目の結果は自己理解の能力が他者の理解にも応用され得ることを示すものである。しかし、援助行動の生起に相手からの積極的な要求が必要な結果など、チンパンジーやサルでもヒトとの違いが見られた。項目２の研究ではメタ認知能力の時間的広がりがヒト以外の動物種では限られていることが示されたが、本項目の結果も、共感性などの他者の状態を想像する範囲が、ヒト以外の動物種では限定的である可能性を示唆している。

以上のように、本研究課題の実施により、多様な動物種における行動研究、行動観察が実現し、多くの成果を生むことができた。これらの成果から、現在の心的表象を利用した課題解決である、思考や推理は、霊長類種のみならず魚類に至るまでその萌芽的な能力を含め、分有されている可能性が示された。その一方で、メタ認知やエピソード記憶を過去や未来に投影する心的時間旅行に関しては大きな種差が見られることが明らかとなった。また、多くの種は優れた他者理解能力を持ち、自己経験や自己理解が他者の心的状態の解釈や次の行動の予測に影響を及ぼすことが示されたが，ヒト以外の動物種で，他者の心的状態を想起する範囲の限界も見られた。これらの結果は，心の自立性の萌芽的能力がヒト以外の動物種にも備わっていることを示すものであると同時に，その時間的な広がりや，他者への広がりに種差があることも示している。このように，全体として当初計画した「心の自立性」を検討するための 3 つの側面について，多岐にわたるアプローチで多くの成果を示すことができたことにより，プロジェクトの狙いは達成された。上記の成果は，心の自立性の発生過程を考察するための重要な資料である。また，上記の主要な成果以外にも関連する研究の多くが査読付き国際誌に公刊されている。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計107件（うち査読付論文　92件／うち国際共著　16件／うちオープンアクセス　28件）

１．著者名 Iwasaki Sumie、Kuroshima Hika、Arahori Minori、Fujita Kazuo	４．巻 134
２．論文標題 Prospective information-seeking in human children (Homo sapiens): When to seek and what to seek.	５．発行年 2020年
３．雑誌名 Journal of Comparative Psychology	６．最初と最後の頁 341-348
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1037/com0000217	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 Iwasaki Sumie、Kuroshima Hika、Fujita Kazuo	４．巻 6
２．論文標題 Pigeons show metamemory by requesting reduced working memory loads.	５．発行年 2019年
３．雑誌名 Animal Behavior and Cognition	６．最初と最後の頁 247～253
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.26451/abc.06.04.04.2019	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 KISHIMOTO Reiki、ITAKURA Shoji、FUJITA Kazuo、HASHIYA Kazuhide	４．巻 61
２．論文標題 EVALUATION OF “CALCULATING” HELPERS BASED ON THIRD-PARTY OBSERVATION IN ADULTS AND CHILDREN	５．発行年 2020年
３．雑誌名 PSYCHOLOGIA	６．最初と最後の頁 185～199
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.2117/psysoc.2019-A008	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 KISHIMOTO Reiki、Iwasaki Sumie、FUJITA Kazuo	４．巻 61
２．論文標題 Capuchin monkeys (Sapajus apella) failed to seek information for their potential forgetting in a computerized task	５．発行年 2020年
３．雑誌名 Primates	６．最初と最後の頁 623-632
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1007/s10329-020-00804-7	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Hataji Yuya、Kuroshima Hika、Fujita Kazuo	4．巻 9
2．論文標題 Pigeons integrate visual motion signals differently than humans	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Scientific Reports	6．最初と最後の頁 13411
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1038/s41598-019-49839-x	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Hataji Yuya、Kuroshima Hika、Fujita Kazuo	4．巻 11
2．論文標題 Dynamic Corridor Illusion in Pigeons: Humanlike Pictorial Cue Precedence Over Motion Parallax Cue in Size Perception	5．発行年 2020年
3．雑誌名 i-Perception	6．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1177/2041669520911408	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Hataji Yuya、Fujita Kazuo、Kuroshima Hika	4．巻 23
2．論文標題 Pigeons (Columba Livia) Integrate Visual Motion Using the Vector Average Rule: Effect of Viewing Distance	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Animal Cognition	6．最初と最後の頁 819-825
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1007/s10071-020-01376-1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Takagi Saho、Arahori Minori、Chijiiwa Hitomi、Saito Atsuko、Kuroshima Hika、Fujita Kazuo	4．巻 22
2．論文標題 Cats match voice and face: cross-modal representation of humans in cats (Felis catus)	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Animal Cognition	6．最初と最後の頁 901-906
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1007/s10071-019-01265-2	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Bucher Benoit、Arahori Minori、Chijiiwa Hitomi、Takagi Saho、Fujita Kazuo	4．巻 9
2．論文標題 Domestic cats’ reactions to their owner and an unknown individual petting a potential rival	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Pet Behaviour Science	6．最初と最後の頁 16-33
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.21071/pbs.vi9.12176	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Kawaguchi Yuri、Kuroshima Hika、Fujita Kazuo	4．巻 133
2．論文標題 Age categorization of conspecific and heterospecific faces in capuchin monkeys (Sapajus apella).	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Journal of Comparative Psychology	6．最初と最後の頁 502～511
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1037/com0000185	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Bucher Benoit、Bourgeois Maxime、Anderson James R、Kuroshima Hika、Fujita Kazuo	4．巻 61
2．論文標題 Investigating reactions of squirrel monkeys (Saimiri sciureus) towards unequal food distributions in a tray-pulling paradigm	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Primates	6．最初と最後の頁 717-727
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1007/s10329-020-00821-6	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Haensel Jennifer X.、Danvers Matthew、Ishikawa Mitsuhiko、Itakura Shoji、Tucciarelli Raffaele、Smith Tim J.、Senju Atsushi	4．巻 10
2．論文標題 Culture modulates face scanning during dyadic social interactions	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Scientific Reports	6．最初と最後の頁 1958
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1038/s41598-020-58802-0	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 Yamamoto Hiroki、Sato Atsushi、Itakura Shoji	4．巻 10
2．論文標題 Transition From Crawling to Walking Changes Gaze Communication Space in Everyday Infant-Parent Interaction	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Frontiers in Psychology	6．最初と最後の頁 2987
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3389/fpsyg.2019.02987	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 米田 英嗣、間野 陽子、板倉 昭二	4．巻 62
2．論文標題 こころの多様な現象としての共感性	5．発行年 2019年
3．雑誌名 心理学評論	6．最初と最後の頁 39～50
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24602/sjpr.62.1_39	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Moriguchi Yusuke、Kanakogi Yasuhiro、Okumura Yuko、Shinohara Ikuko、Itakura Shoji、Shimojo Shinsuke	4．巻 5
2．論文標題 Imaginary agents exist perceptually for children but not for adults	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Palgrave Communications	6．最初と最後の頁 133
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1057/s41599-019-0350-6	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Yamamoto Hiroki、Sato Atsushi、Itakura Shoji	4．巻 9
2．論文標題 Eye tracking in an everyday environment reveals the interpersonal distance that affords infant-parent gaze communication	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Scientific Reports	6．最初と最後の頁 10352
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1038/s41598-019-46650-6	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Mitsuhiko Ishikawa、Yoshimura Mina、Sato Hiroki、Itakura Shoji	4．巻 20
2．論文標題 Effects of attentional behaviours on infant visual preferences and object choice	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Cognitive Processing	6．最初と最後の頁 317-324
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1007/s10339-019-00918-x	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Park Yun-hee、Itakura Shoji	4．巻 48
2．論文標題 Causal Information Over Facial Expression: Modulation of Facial Expression Processing by Congruency and Causal Factor of the Linguistic Cues in 5-Year-Old Japanese Children	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Journal of Psycholinguistic Research	6．最初と最後の頁 987-1004
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1007/s10936-019-09643-0	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Di Dio Cinzia、Manzi Federico、Itakura Shoji、Kanda Takayuki、Ishiguro Hiroshi、Massaro Davide、Marchetti Antonella	4．巻 12
2．論文標題 It Does Not Matter Who You Are: Fairness in Pre-schoolers Interacting with Human and Robotic Partners	5．発行年 2019年
3．雑誌名 International Journal of Social Robotics	6．最初と最後の頁 1045-1059
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1007/s12369-019-00528-9	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Koster Moritz、Itakura Shoji、Omori Masaki、Kartner Joscha	4．巻 22
2．論文標題 From understanding others' needs to prosocial action: Motor and social abilities promote infants' helping	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Developmental Science	6．最初と最後の頁 e12804
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1111/desc.12804	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Ikeda Ayaka、Kobayashi Tessei、Itakura Shoji	4．巻 55
2．論文標題 Sensitivity to register selection errors amongst 5- and 7-year-old children.	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Developmental Psychology	6．最初と最後の頁 1380～1388
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1037/dev0000725	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Saito Miho、Takagi Naoko、Tanaka Masayuki、Yamanashi Yumi	4．巻 37
2．論文標題 Nighttime Suckling Behavior in Captive Giraffe (Giraffa camelopardalis reticulata)	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Zoological Science	6．最初と最後の頁 1～1
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.2108/zs190094	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Takagi Naoko、Saito Miho、Ito Hideyuki、Tanaka Masayuki、Yamanashi Yumi	4．巻 38
2．論文標題 Sleep‐related behaviors in zoo‐housed giraffes (Giraffa camelopardalis reticulata): Basic characteristics and effects of season and parturition	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Zoo Biology	6．最初と最後の頁 490～497
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1002/zoo.21511	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Kano Fumihiro、Krupenye Christopher、Hirata Satoshi、Tomonaga Masaki、Call Josep	4．巻 116
2．論文標題 Great apes use self-experience to anticipate an agent’s action in a false-belief test	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Proceedings of the National Academy of Sciences	6．最初と最後の頁 20904～20909
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1073/pnas.1910095116	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Many Primates、et al.	4．巻 14
2．論文標題 Establishing an infrastructure for collaboration in primate cognition research	5．発行年 2019年
3．雑誌名 PLOS ONE	6．最初と最後の頁 e0225236
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1371/journal.pone.0223675	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 KANO FUMIHIRO	4．巻 69
2．論文標題 What are flying birds looking at? New challenges in the use of cutting-edge sensor technologies to study bird gaze	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Japanese Journal of Animal Psychology	6．最初と最後の頁 39～53
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.2502/janip.69.1.1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Kawaguchi Yuri、Kano Fumihiro、Tomonaga Masaki	4．巻 154
2．論文標題 Chimpanzees, but not bonobos, attend more to infant than adult conspecifics	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Animal Behaviour	6．最初と最後の頁 171～181
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.anbehav.2019.06.014	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Sato Yutaro、Hirata Satoshi、Kano Fumihiro	4．巻 22
2．論文標題 Spontaneous attention and psycho-physiological responses to others’ injury in chimpanzees	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Animal Cognition	6．最初と最後の頁 807～823
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1007/s10071-019-01276-z	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Kishimoto Reiki、Iwasaki Sumie、Fujita Kazuo	4．巻 133
2．論文標題 Do capuchins (Sapajus apella) know how well they will remember? Analysis of delay length-dependency with memory strategies.	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Journal of Comparative Psychology	6．最初と最後の頁 340～350
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1037/com0000164	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Ishikawa Mitsuhiko、Itakura Shoji	4．巻 286
2．論文標題 Physiological arousal predicts gaze following in infants	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Proceedings of the Royal Society B: Biological Sciences	6．最初と最後の頁 20182746
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1098/rspb.2018.2746	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Di Dio C.、Manzi F.、Itakura S.、Kanda T.、Ishiguro H.、Massaro D.、Marchetti A.	4．巻 12
2．論文標題 It Does Not Matter Who You Are: Fairness in Pre-schoolers Interacting with Human and Robotic Partners	5．発行年 2019年
3．雑誌名 International Journal of Social Robotics	6．最初と最後の頁 1045～1059
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1007/s12369-019-00528-9	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 Ikeda Ayaka、Kobayashi Tessei、Itakura Shoji	4．巻 55
2．論文標題 Sensitivity to register selection errors amongst 5- and 7-year-old children.	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Developmental Psychology	6．最初と最後の頁 1380～1388
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1037/dev0000725	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Matsuno Toyomi、Fujita Kazuo	4．巻 13
2．論文標題 Body inversion effect in monkeys	5．発行年 2018年
3．雑誌名 PLOS ONE	6．最初と最後の頁 e0204353
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1371/journal.pone.0204353	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Murase Aoi、Fujita Kazuo	4．巻 8
2．論文標題 Predator experience changes spider mites’ habitat choice even without current threat	5．発行年 2018年
3．雑誌名 Scientific Reports	6．最初と最後の頁 8388
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1038/s41598-018-26757-y	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Kano Fumihiro、Walker James、Sasaki Takao、Biro Dora	4．巻 221
2．論文標題 Head-mounted sensors reveal visual attention of free-flying homing pigeons	5．発行年 2018年
3．雑誌名 The Journal of Experimental Biology	6．最初と最後の頁 jeb18347
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1242/jeb.183475	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 Kano Fumihiro、Moore Richard、Krupenye Christopher、Hirata Satoshi、Tomonaga Masaki、Call Josep	4．巻 21
2．論文標題 Human ostensive signals do not enhance gaze following in chimpanzees, but do enhance object-oriented attention	5．発行年 2018年
3．雑誌名 Animal Cognition	6．最初と最後の頁 715～728
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1007/s10071-018-1205-z	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 SATO YUTARO、KANO FUMIHIRO、HIRATA SATOSHI	4．巻 68
2．論文標題 Cutting-edge infrared thermography as a new tool to explore animal emotions	5．発行年 2018年
3．雑誌名 Japanese Journal of Animal Psychology	6．最初と最後の頁 1～15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.2502/janip.68.1.7	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Kano Fumihiro、Shepherd Stephen V.、Hirata Satoshi、Call Josep	4．巻 13
2．論文標題 Primate social attention: Species differences and effects of individual experience in humans, great apes, and macaques	5．発行年 2018年
3．雑誌名 PLOS ONE	6．最初と最後の頁 e0193283
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1371/journal.pone.0193283	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 Ishikawa Mitsuhiko、Itakura Shoji	4．巻 9
2．論文標題 Observing Others’ Gaze Direction Affects Infants’ Preference for Looking at Gazing- or Gazed-at Faces	5．発行年 2018年
3．雑誌名 Frontiers in Psychology	6．最初と最後の頁 1503
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3389/fpsyg.2018.01503	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Okanda Mako、Zhou Yue、Kanda Takayuki、Ishiguro Hiroshi、Itakura Shoji	4．巻 27
2．論文標題 I hear your yes-no questions: Children's response tendencies to a humanoid robot	5．発行年 2018年
3．雑誌名 Infant and Child Development	6．最初と最後の頁 e2079～e2079
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1002/icd.2079	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 Marchetti Antonella、Manzi Federico、Itakura Shoji、Massaro Davide	４．巻 226
２．論文標題 Theory of Mind and Humanoid Robots From a Lifespan Perspective	５．発行年 2018年
３．雑誌名 Zeitschrift fur Psychologie	６．最初と最後の頁 98～109
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1027/2151-2604/a000326	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

１．著者名 Ikeda Ayaka、Kobayashi Tessei、Itakura Shoji	４．巻 13
２．論文標題 Sensitivity to linguistic register in 20-month-olds: Understanding the register-listener relationship and its abstract rules	５．発行年 2018年
３．雑誌名 PLOS ONE	６．最初と最後の頁 e0195214
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1371/journal.pone.0195214	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 Ikeda Ayaka、Okumura Yuko、Kobayashi Tessei、Itakura Shoji	４．巻 8
２．論文標題 Children passively allow other’s rule violations in cooperative situations	５．発行年 2018年
３．雑誌名 Scientific Reports	６．最初と最後の頁 6843
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1038/s41598-018-25210-4	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 Kim Sunae、Paulus Markus、Sodian Beate、Itakura Shoji、Ueno Mika、Senju Atsushi、Proust Joelle	４．巻 54
２．論文標題 Selective learning and teaching among Japanese and German children.	５．発行年 2018年
３．雑誌名 Developmental Psychology	６．最初と最後の頁 536～542
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1037/dev0000441	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 Surian Luca、Ueno Mika、Itakura Shoji、Meristo Marek	4．巻 9
2．論文標題 Do Infants Attribute Moral Traits? Fourteen-Month-Olds' Expectations of Fairness Are Affected by Agents' Antisocial Actions	5．発行年 2018年
3．雑誌名 Frontiers in Psychology	6．最初と最後の頁 1649
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3389/fpsyg.2018.01649	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 Koester Moritz、Itakura Shoji、Yovsi Relindis、Kartner Joscha	4．巻 13
2．論文標題 Visual attention in 5-year-olds from three different cultures	5．発行年 2018年
3．雑誌名 PLOS ONE	6．最初と最後の頁 e0200239
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1371/journal.pone.0200239	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 Anderson James R.、Bucher Benoit、Chijiiwa Hitomi、Kuroshima Hika、Takimoto Ayaka、Fujita Kazuo	4．巻 82
2．論文標題 Third-party social evaluations of humans by monkeys and dogs	5．発行年 2017年
3．雑誌名 Neuroscience & Biobehavioral Reviews	6．最初と最後の頁 95～109
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.neubiorev.2017.01.003	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Arahori Minori、Chijiiwa Hitomi、Takagi Saho、Bucher Benoit、Abe Hideaki、Inoue-Murayama Miho、Fujita Kazuo	4．巻 8
2．論文標題 Microsatellite Polymorphisms Adjacent to the Oxytocin Receptor Gene in Domestic Cats: Association with Personality?	5．発行年 2017年
3．雑誌名 Frontiers in Psychology	6．最初と最後の頁 eColle2017
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3389/fpsyg.2017.02165	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Arahori Minori、Kuroshima Hika、Hori Yusuke、Takagi Saho、Chijiiwa Hitomi、Fujita Kazuo	4．巻 141
2．論文標題 Owners’ view of their pets’ emotions, intellect, and mutual relationship: Cats and dogs compared	5．発行年 2017年
3．雑誌名 Behavioural Processes	6．最初と最後の頁 316～321
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.beproc.2017.02.007	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Kuroshima Hika、Nabeoka Yukari、Hori Yusuke、Chijiiwa Hitomi、Fujita Kazuo	4．巻 136
2．論文標題 Experience matters: Dogs (Canis familiaris) infer physical properties of objects from movement clues	5．発行年 2017年
3．雑誌名 Behavioural Processes	6．最初と最後の頁 54～58
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.beproc.2017.01.013	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Murase Aoi、Fujita Kazuo、Yano Shuichi	4．巻 4
2．論文標題 Behavioural flexibility in spider mites: oviposition site shifts based on past and present stimuli from conspecifics and predators	5．発行年 2017年
3．雑誌名 Royal Society Open Science	6．最初と最後の頁 170328～170328
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1098/rsos.170328	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Takagi Saho、Tsuzuki Mana、Chijiiwa Hitomi、Arahori Minori、Watanabe Arii、Saito Atsuko、Fujita Kazuo	4．巻 141
2．論文標題 Use of incidentally encoded memory from a single experience in cats	5．発行年 2017年
3．雑誌名 Behavioural Processes	6．最初と最後の頁 267～272
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.beproc.2016.12.014	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Okumura Yuko、Kanakogi Yasuhiro、Kobayashi Tessei、Itakura Shoji	4．巻 166
2．論文標題 Individual differences in object-processing explain the relationship between early gaze-following and later language development	5．発行年 2017年
3．雑誌名 Cognition	6．最初と最後の頁 418～424
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.cognition.2017.06.005	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Ishikawa Mitsuhiko、Shoji Itakura	4．巻 2
2．論文標題 Familiarity of Actors Affects Eye Gaze Processing During Observation of Goal-Directed Actions	5．発行年 2017年
3．雑誌名 Psychology and Behavioral Science International Journal	6．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.19080/PBSIJ.2017.02.555592	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Ishikawa Mitsuhiko、Itakura Shoji、Tanabe Hiroki C.	4．巻 2017
2．論文標題 Autistic Traits Affect P300 Response to Unexpected Events, regardless of Mental State Inferences	5．発行年 2017年
3．雑誌名 Autism Research and Treatment	6．最初と最後の頁 1～10
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1155/2017/8195129	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Broesch Tanya、Itakura Shoji、Rochat Philippe	4．巻 48
2．論文標題 Learning From Others: Selective Requests by 3-Year-Olds of Three Cultures	5．発行年 2017年
3．雑誌名 Journal of Cross-Cultural Psychology	6．最初と最後の頁 1432～1441
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1177/0022022117731093	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Hirata Satoshi、Fuwa Kohki、Myowa Masako	4．巻 4
2．論文標題 Chimpanzees recognize their own delayed self-image	5．発行年 2017年
3．雑誌名 Royal Society Open Science	6．最初と最後の頁 1～9
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1098/rsos.170370	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Kano Fumihiro、Krupenye Christopher、Hirata Satoshi、Call Josep、Tomasello Michael	4．巻 21
2．論文標題 Submentalizing Cannot Explain Belief-Based Action Anticipation in Apes	5．発行年 2017年
3．雑誌名 Trends in Cognitive Sciences	6．最初と最後の頁 633～634
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.tics.2017.06.011	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 Kano Fumihiro、Krupenye Christopher、Hirata Satoshi、Call Josep	4．巻 10
2．論文標題 Eye tracking uncovered great apes' ability to anticipate that other individuals will act according to false beliefs	5．発行年 2017年
3．雑誌名 Communicative & Integrative Biology	6．最初と最後の頁 e1299836～
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/19420889.2017.1299836	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 Ringhofer Monamie、Inoue Sota、Mendonca Renata S.、Pereira Carlos、Matsuzawa Tetsuro、Hirata Satoshi、Yamamoto Shinya	4．巻 58
2．論文標題 Comparison of the social systems of primates and feral horses: data from a newly established horse research site on Serra D’Arga, northern Portugal	5．発行年 2017年
3．雑誌名 Primates	6．最初と最後の頁 479～484
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1007/s10329-017-0614-y	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 Fujita, K., Nakamura, N., & Watanabe, S.	4．巻 -
2．論文標題 Visual illusion in a comparative perspective	5．発行年 2017年
3．雑誌名 In: A. Shapiro & D. Todorovic (eds.), The Oxford compendium of visual illusions. Oxford University Press	6．最初と最後の頁 54-63
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Anderson, J. R., Bucher, B., Kuroshima, H., & Fujita, K。	4．巻 19
2．論文標題 Evaluation of third-party reciprocity by squirrel monkeys (Saimiri sciureus) and the question of mechanisms	5．発行年 2016年
3．雑誌名 Animal Cognition	6．最初と最後の頁 62-67
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1007/s10071-016-0980-	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 藤田和生	4．巻 66
2．論文標題 イヌはヒトの行動に何を見ているのか？	5．発行年 2016年
3．雑誌名 動物心理学研究	6．最初と最後の頁 11-21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.2502/janip.66.1.5	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Anderson, J. R., Kuroshima, H., & Fujita, K.	4．巻 70
2．論文標題 Observational learning in capuchin monkeys: a video deficit effect	5．発行年 2016年
3．雑誌名 The Quarterly Journal of Experimental Psychology	6．最初と最後の頁 1254-1262
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/17470218.2016.1178312	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Takagi, S., Arahori, M., Chijiiwa, H., Tsuzuki, M., Hataji, Y., & Fujita, K.	4．巻 19
2．論文標題 There's no ball without noise: cats' prediction of an object from noise	5．発行年 2016年
3．雑誌名 Animal Cognition	6．最初と最後の頁 1043-1047
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1007/s10071-016-1001-6	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 KUROSHIMA Hika、HORI Yusuke、INOUE-MURAYAMA Miho、FUJITA Kazuo	4．巻 59
2．論文標題 INFLUENCE OF OWNERS’ PERSONALITY ON PERSONALITY IN LABRADOR RETRIEVER DOGS	5．発行年 2016年
3．雑誌名 PSYCHOLOGIA	6．最初と最後の頁 73～80
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.2117/psysoc.2016.73	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 TAKIMOTO Ayaka、HORI Yusuke、FUJITA Kazuo	4．巻 59
2．論文標題 HORSES (<i>EQUUS CABALLUS</i>) ADAPTIVELY CHANGE THE MODALITY OF THEIR BEGGING BEHAVIOR AS A FUNCTION OF HUMAN ATTENTIONAL STATES	5．発行年 2016年
3．雑誌名 PSYCHOLOGIA	6．最初と最後の頁 100～111
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.2117/psysoc.2016.100	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Betsuyaku, T., Tsuzuki, M., & Fujita, K.	4．巻 －
2．論文標題 Recollection of What-Where-Which memory in degus (Octodon degus)	5．発行年 2016年
3．雑誌名 Psychologia	6．最初と最後の頁 －
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Anderson James R.、Bucher Benoit、Chijiiwa Hitomi、Kuroshima Hika、Takimoto Ayaka、Fujita Kazuo	4．巻 82
2．論文標題 Third-party social evaluations of humans by monkeys and dogs	5．発行年 2017年
3．雑誌名 Neuroscience & Biobehavioral Reviews	6．最初と最後の頁 95～109
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.neubiorev.2017.01.003	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Kuroshima, H., Nabeoka, Y., Hori, Y., Chijiiwa, H., & Fujita, K.	4．巻 136
2．論文標題 Experience matters: Dogs (Canis familiaris) infer physical properties of objects from movements clues	5．発行年 2017年
3．雑誌名 Behavioural Processes	6．最初と最後の頁 54-58
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.beproc.2017.01.013	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Takagi Saho、Tsuzuki Mana、Chijiiwa Hitomi、Arahori Minori、Watanabe Arii、Saito Atsuko、Fujita Kazuo	4．巻 141
2．論文標題 Use of incidentally encoded memory from a single experience in cats	5．発行年 2017年
3．雑誌名 Behavioural Processes	6．最初と最後の頁 267～272
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.beproc.2016.12.014	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Arahori, M., Kuroshima, H., Hori, Y., Takagi, S., Chijiiwa, H., & Fujita, K.	4．巻 141
2．論文標題 Owners’ view of their pets’ emotions, intellect, and mutual relationship: cats and dogs compared	5．発行年 2017年
3．雑誌名 Behavioural Processes	6．最初と最後の頁 316-321
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 FUjita, K.	4．巻 —
2．論文標題 Guest Editorial: Why do we study minds of companion animals ?	5．発行年 2016年
3．雑誌名 Psychologia	6．最初と最後の頁 —
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 —

1．著者名 Fujita, K., Nakamura, N., & Watanabe, S.	4．巻 —
2．論文標題 Visual illusion in a comparative perspective	5．発行年 2017年
3．雑誌名 In: A. Shapiro & D. Todorovic (eds.), The Oxford compendium of visual illusions. Oxford University Press	6．最初と最後の頁 —
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 —

1．著者名 Fujita, K., Nakamura, N., Watanabe, S., & Ushitani, T.	4．巻 2
2．論文標題 Comparative Visual Illusions: Evolutionary, cross-cultural, and developmental perspectives	5．発行年 2017年
3．雑誌名 In: J. Call (ed.), APA Handbook of Comparative Psychology, Vol. 2, Perception, Learning, and Cognition. American Psychological Association	6．最初と最後の頁 163-181
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 —

1．著者名 Ishikawa, M., Park, Y-h., Kitazaki, M., and Itakura, S.	4．巻 12
2．論文標題 Social information affects adults’ evaluation of fairness in distributions: An ERP approach	5．発行年 2017年
3．雑誌名 PLoS ONE	6．最初と最後の頁 e0172974
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1371/journal.pone.0172974	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 —

1．著者名 板倉昭二	4．巻 59
2．論文標題 We-modeサイエンスの構築に向けて	5．発行年 2016年
3．雑誌名 心理学評論	6．最初と最後の頁 215-216
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 古畑尚樹・板倉昭二	4．巻 59
2．論文標題 乳幼児におけるWe-modeサイエンスの可能性―協働行動からの検討―	5．発行年 2016年
3．雑誌名 心理学評論，59(3)，236-252．　（査読有	6．最初と最後の頁 236-252
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 4.Jacquot，A.，Eskenazi，T.，Itakura，S.，Sales-Wuillemin，E.，Senju，A.，Proust，J.，Conty，L.	4．巻 108
2．論文標題 Cross cultural differences in response to social feedback during metacognitive evaluations: An electromyographic study	5．発行年 2016年
3．雑誌名 International Journal of Psychophysiology	6．最初と最後の頁 153-154
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.ijpsycho.2016.07.444	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 Okumura，Y.，Kobayashi，T.，and Itakura，S.	4．巻 11
2．論文標題 Eye contact affects object representation in 9-month-old infants	5．発行年 2016年
3．雑誌名 PLoS ONE	6．最初と最後の頁 e0165145
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1371/journal.pone.0165145	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 6.Moriguchi, Y., Kanakogi, Y., Todo, N., Okumura, Y., Shinohara, I. and Itakura, S.	4．巻 7
2．論文標題 Goal attribution toward non-human objects during infancy predicts imaginary companion status during preschool years	5．発行年 2016年
3．雑誌名 Frontiers in Psychology	6．最初と最後の頁 221
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3389/fpsyg.2016.00221	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 奥村優子・池田彩夏・小林哲生・松田昌史・板倉昭二	4．巻 27
2．論文標題 幼児は他者に見られていることを気にするのか：良い評判と悪い評判に関する行動調整	5．発行年 2016年
3．雑誌名 発達心理学研究	6．最初と最後の頁 201-211
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 池田彩夏・小林哲生・板倉昭二	4．巻 23
2．論文標題 日本語母語話者の対乳幼児発話における格助詞省略	5．発行年 2016年
3．雑誌名 認知科学	6．最初と最後の頁 8-21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 板倉昭二	4．巻 2
2．論文標題 乳児における向社会行動の知覚－乳児にとってのナイス・エージェントとは？－	5．発行年 2016年
3．雑誌名 エモーション・スタディーズ	6．最初と最後の頁 3-9
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Kano, F., Krupenye, C., Hirata, S., Call, J.	4．巻 10
2．論文標題 Eye tracking uncovered great apes’ ability to anticipate that other individuals will act according to false beliefs	5．発行年 2017年
3．雑誌名 Communicative & Integrative Biology	6．最初と最後の頁 e1299836
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/19420889.2017.1299836	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 Hirata, S., Hirai, H., Nogami, E., Morimura, N., Udono, T.	4．巻 58
2．論文標題 Chimpanzee Down syndrome: a case study of trisomy 22 in a captive chimpanzee	5．発行年 2017年
3．雑誌名 Primates	6．最初と最後の頁 267-273
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1007/s10329-017-0597-8	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Wilson, V. A. D., Weiss, A., Humle, T., Morimura, N., Udono, T., Idani, G., Matsuzawa, T., Hirata, S., & Inoue-Murayama, M.	4．巻 47
2．論文標題 Chimpanzee Personality and the Arginine Vasopressin Receptor 1A Genotype	5．発行年 2017年
3．雑誌名 Behavior Genetics	6．最初と最後の頁 215-226
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1007/s10519-016-9822-2	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 Hirata, S.	4．巻 20
2．論文標題 Social intelligence in chimpanzees: a quest for the origin of human mind	5．発行年 2016年
3．雑誌名 Ethnographica	6．最初と最後の頁 645-647
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.4000/etnografica.4720	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Arroyo, A., Hirata, S., Matsuzawa, T., & de la Torre, I.	4．巻 11
2．論文標題 Nut cracking tools used by captive chimpanzees (Pan troglodytes) and their comparison with early stone age percussive artefacts from Olduvai Gorge	5．発行年 2016年
3．雑誌名 PLoS ONE	6．最初と最後の頁 e0166788
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1371/journal.pone.0166788	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Krupenye, C., Kano, F., Hirata, S., Call, J., & Tomasello, M	4．巻 354
2．論文標題 Great apes anticipate that other individuals will act according to false beliefs	5．発行年 2016年
3．雑誌名 Science	6．最初と最後の頁 110-114
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1126/science.aaf8110	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Matsuda, Y., Myowa-Yamakoshi, M., & Hirata, S.	4．巻 4
2．論文標題 Familiar face + novel face = familiar face? Representational bias in the perception of morphed faces in chimpanzee	5．発行年 2016年
3．雑誌名 PeerJ	6．最初と最後の頁 e2304
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.7717/peerj.2304	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Yamanashi Y, Teramoto, M., Morimura, N., Hirata, S., Inoue-Murayama, M., Idani, G.	4．巻 11
2．論文標題 Effects of relocation and individual and environmental factors on the long-term stress levels in captive chimpanzees (Pan troglodytes): monitoring hair cortisol and behaviors	5．発行年 2016年
3．雑誌名 PLoS ONE	6．最初と最後の頁 e0160029
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1371/journal.pone.0160029	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 平田聡	4．巻 18
2．論文標題 雲南と馬	5．発行年 2017年
3．雑誌名 ヒマラヤ学誌	6．最初と最後の頁 58-63
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 平田聡	4．巻 1
2．論文標題 連載「ウマ学ことはじめ」第1回：ポルトガルの野生ウマ	5．発行年 2016年
3．雑誌名 モンキー	6．最初と最後の頁 10-11
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 平田聡	4．巻 1
2．論文標題 連載「ウマ学ことはじめ」第2回：アルガ山で調査開始	5．発行年 2016年
3．雑誌名 モンキー	6．最初と最後の頁 36-37
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 平田聡	4．巻 147
2．論文標題 熊本地震とチンパンジー	5．発行年 2016年
3．雑誌名 発達	6．最初と最後の頁 91-108
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 平田聡	4．巻 1
2．論文標題 連載「ウマ学ことはじめ」第3回：ウマに名前をつける	5．発行年 2016年
3．雑誌名 モンキー	6．最初と最後の頁 60-61
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 平田聡	4．巻 1
2．論文標題 連載「ウマ学ことはじめ」第4回：中国でウマに乗る	5．発行年 2016年
3．雑誌名 モンキー	6．最初と最後の頁 84-85
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 平田聡	4．巻 44
2．論文標題 社会的知性の進化－心・文化・社会はヒト特有のものか	5．発行年 2016年
3．雑誌名 現代思想	6．最初と最後の頁 160-171
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 平田聡・瀬山倫子	4．巻 22
2．論文標題 学問の融合を議論する	5．発行年 2017年
3．雑誌名 学術の動向	6．最初と最後の頁 46-48
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 平田聡	4．巻 －
2．論文標題 トピック1－チンパンジーのこころ	5．発行年 2017年
3．雑誌名 In: 藤田和生（編著）比較認知科学．NHK出版	6．最初と最後の頁 176-191
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 塩田幸弘，八代田真人，河村あゆみ，田中正之	4．巻 88
2．論文標題 動物園で給餌している樹葉の重量推定と栄養含量の季節変化	5．発行年 2017年
3．雑誌名 日本畜産学会報	6．最初と最後の頁 9-17
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 岡部光太，田中正之	4．巻 58
2．論文標題 闘争が見られたレッサーパンダのペアの繁殖期の行動経年変化	5．発行年 2017年
3．雑誌名 動物園水族館雑誌	6．最初と最後の頁 69-77
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 吉田信明，田中正之，和田晴太郎	4．巻 3
2．論文標題 動物園における教育プログラムのための動物行動観察支援システム	5．発行年 2017年
3．雑誌名 情報処理学会論文誌：教育とコンピュータ	6．最初と最後の頁 36-45
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Yamanashi, Y., Matsunaga, M., Shimada, K., Kado, R., & Tanaka, M.	4．巻 4
2．論文標題 (2016) Introducing tool-based feeders to zoo-housed chimpanzees as a cognitive challenge: spontaneous acquisition of new types of tool use and effects on behaviours and use of space	5．発行年 2016年
3．雑誌名 Journal of Zoo and Acquarium Research	6．最初と最後の頁 1-9
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.19227/jzar.v4i3.235	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 田中正之	4．巻 66
2．論文標題 動物園動物のこころをさぐる	5．発行年 2016年
3．雑誌名 動物心理学研究	6．最初と最後の頁 53-57
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.2502/janip.66.1.8	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 田中正之	4．巻 7
2．論文標題 生まれ変わった動物園－京都市動物園での研究と教育－	5．発行年 2016年
3．雑誌名 ＮＵ７	6．最初と最後の頁 3-8
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計67件（うち招待講演　24件／うち国際学会　42件）

1．発表者名 Iwasaki S, Umeda S, Kuroshima H, Kishimoto R, Fujita K.
2．発表標題 Pigeons fail to show prospective memory in a computerized task
3．学会等名 79th Annual Meeting of the Japanese Society of Animal Psychology
4．発表年 2019年

１．発表者名 岸本励季，岩崎純衣，藤田和生
２．発表標題 フサオマキザルにおける自身の忘却を見据えた情報希求
３．学会等名 第12回日本人間行動進化学会大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 Takagi S, Chijiiwa H, Arahori M, Kuroshima H, Fujita K.
２．発表標題 Mental tracking from voices
３．学会等名 79th Annual Meeting of the Japanese Society of Animal Psychology
４．発表年 2019年

１．発表者名 Chijiiwa H, Horisaki E, Hori Y, Fujita K, Kuroshima H.
２．発表標題 Do dogs evaluate humans based on skillfulness?
３．学会等名 79th Annual Meeting of the Japanese Society of Animal Psychology
４．発表年 2019年

１．発表者名 Matsuno T, Kuroshima H.
２．発表標題 Dyad inversion effect in capuchin monkeys (Sapajus apella) and humans (Homo sapiens)
３．学会等名 79th Annual Meeting of the Japanese Society of Animal Psychology
４．発表年 2019年

１．発表者名 Shiotani K. Hataji Y, Kuroshima H, Fujita K.
２．発表標題 Do cockatiels map numbers spatially?
３．学会等名 79th Annual Meeting of the Japanese Society of Animal Psychology
４．発表年 2019年

１．発表者名 高木佐保，齋藤慈子，藤田和生，黒島妃香.
２．発表標題 ネコの聴覚情報を用いたメンタルトラッキング
３．学会等名 日本心理学会第83回大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 若園誠，山梨裕美，Zsofia Budai，黒島妃香，岩崎純衣，田中正之，藤田和生.
２．発表標題 キリン（Giraffa camelopardalis）は自分が「知らない」ことを知っているのか？ーキリンにおける情報希求行動の生起についてー
３．学会等名 関西心理学会第131回大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 Itakura S.
２．発表標題 From whom do infants learn?-Developmental Cybernetics view-
３．学会等名 19th European Conference of Developmental Psychology（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Itakura S.
２．発表標題 Developmental Cybernetics Workshop 3
３．学会等名 Research in aspects of social development: Collaborations between the UK and Japan（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 板倉昭二
２．発表標題 赤ちゃんの行動を科学する－高社会鼓動の視点から－
３．学会等名 白梅学園大学発達臨床セミナー（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 板倉昭二
２．発表標題 乳児における向社会行動
３．学会等名 中央大学感性工学，認知科学クラスターシンポジウム２０１９『法と脳 ー認知多様社会の規範はどうあるべきか？ー』（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 板倉昭二
２．発表標題 乳幼児における社会性：身体、運動、心拍との関係から
３．学会等名 然科学研究機構 異分野融合型研究事業 ワークショップ（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 板倉昭二
２．発表標題 自己の進化と発達－自己鏡映像認知と自己身体に着目して－
３．学会等名 京都大学オリジナル　IHI「ヒトと文化を理解するフォーラム」（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Kuroda K, Yoneda H, Nagao M, Shimada K, Aramaki Y, Seo R, Sakuraba Y, Yamanashi Y, Tanaka M
２．発表標題 Introduction of New Elephants to a Former Solitary Captive Elephant: The Process of Forming Social Relationships
３．学会等名 The 14th International Conference on Environmental Enrichment（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Yamada N, Takeshita H, Takashio J, Sakuraba Y, Takahashi I, Kawakami F, Hayashi M, Tomonaga M
２．発表標題 Developmental Support of Chimpanzee with Cerebral Palsy
３．学会等名 The 14th International Conference on Environmental Enrichment（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Tanaka M, Sakuraba Y
２．発表標題 Ten Years of Long-lasting Cognitive Enrichment for Zoo Primates: Cultural Transmission in Kyoto City Zoo
３．学会等名 The 14th International Conference on Environmental Enrichment（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Sakuraba Y, Yamada N, Takahashi I, Kawakami F, Takashio J, Takeshita H, Hayashi M, Tomonaga M
２．発表標題 Evaluating of Physical State on a Female Chimpanzee with Cerebral Palsy: A Case Study
３．学会等名 The 14th International Conference on Environmental Enrichment（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Tanaka M
２．発表標題 Collaborative Science Education for Biodiversity Conservation Offered by Kyoto’s Zoo, Botanical Garden, Aquarium, and Science Museum
３．学会等名 The 7th Asian Zoo Educators Conference 2019（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 田中正之、櫻庭陽子、吉田信明
２．発表標題 京都市動物園チンパンジー認知エンリッチメント１０年間の記録
３．学会等名 第35回日本霊長類学会大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 Kano F.
２．発表標題 Using cutting-edge technologies to study animal cognition and behavior.
３．学会等名 International Student Symposium on Animal Behavior and Cognition.（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Kano F
２．発表標題 Great ape theory of mind
３．学会等名 Symposium at Societe Japonaise de Linguistique Francaise（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Kano F.
２．発表標題 Great apes use self-experiences to anticipate an agent’s action who has a false belief.
３．学会等名 Japanese Society of Developmental Psychology（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Kano F.
２．発表標題 How do chimpanzees see arts?
３．学会等名 How do chimpanzees feel in arts?（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Kano F.
２．発表標題 ontact-free sensors, such as an eye-tracker and a thermo-camera, are useful to examine cognition and emotion in great apes at zoos and sanctuaries.
３．学会等名 International Primatological Society（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Kishimoto R, Itakura S, Fujita K, Hashiya K
２．発表標題 Preschoolers’ social evaluations of others’ strategically public displays of prosocial behaviour
３．学会等名 BCCCD 2018（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Di Dio, C., Manzi F., Massaro D., Itakura S., Kanda T., Ishiguro, H. & Marchetti A.
２．発表標題 Evaluating fairness in 5-year-old children in a Child-Robot Interaction.
３．学会等名 5th Annual Conference of the Italian Association for Cognitive Sciences（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Di Dio, C., Manzi F., Massaro D., Itakura S., Kanda T., Ishiguro, H. & Marchetti A.
２．発表標題 Being fair to a robot: “shall i treat it like him?”, a five years old wonders.
３．学会等名 10th International Scientific Conference on Neuroethics and 5th Conference of the Italian Society for Neuroethics（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Manzi F., Di Dio, C., Massaro D., Itakura S., Kanda T., Ishiguro, H. & Marchetti A.
２．発表標題 Teoria della Mente e equita in bambini di 5 anni nell’interazione con un umano o un robot: uno studio con l’Ultimatum Game.
３．学会等名 XXXI Congresso AIP Sezione di Psicologia dello Sviluppo e dell’Educazione（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Yamanashi Y, Bando H, Ito F, Matsunaga M, Mizuno M, Shimada K, Kado R, Tanaka M, Nogami E, Hirata S
２．発表標題 Development of bed‐building behaviors in captive chimpanzees: implication for critical period hypothesis and captive management.
３．学会等名 International Primatological Society XXVII Congress.（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Yamanashi Y, Utagawa M, Ito S, Yasui S, Nagao M, Tanaka M
２．発表標題 Tool-use as environmental enrichment for zoo-housed gorillas.
３．学会等名 International Gorilla Workshop. Knoxville（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 岩崎純衣・梅田聡・黒島妃香・藤田和生
２．発表標題 ハトにおける内的時間手がかりを用いた展望的記憶の検討
３．学会等名 日本心理学会第82回大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 Takagi, S., Saito,A., Arahori, M., Chijiiwa, H., Kuroshima, H., Fujita, K.
２．発表標題 Cats' recognition of other cats' names
３．学会等名 日本動物心理学会第78回大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 高木佐保・齋藤慈子・黒島妃香・藤田和生
２．発表標題 ネコは同居個体の名前を知っているのか？
３．学会等名 日本心理学会第82回大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 高木佐保・齋藤慈子・荒堀みのり・千々岩眸・黒島妃香・藤田和生
２．発表標題 ネコはネコ友達の名前を知っているのか？
３．学会等名 関西心理学会第130回大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 Itakura, S
２．発表標題 From whom do infants learn?-Developmental Cybernetics view-
３．学会等名 British Psychological Society-Developmental Section Conferenc（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Itakura, S
２．発表標題 Children's understanding of agency-Developmental Cybernetics view-
３．学会等名 UK-Japan psychological seminar at Lancaster University（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Itakura,S.
２．発表標題 Pro-social behavior in young infants: Fairness, helping, and empathy.
３．学会等名 The 3rd International Symposium on Child Developmental Science（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Chijiiwa, H., Takagi S., Arahori M., Bucher, B., & Fujita, K.
２．発表標題 Third party social evaluation in cats
３．学会等名 The 35th International Ethological Conferenc（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Takagi, S., Arahori, M., Chijiiwa, H., & Fujita, K
２．発表標題 Do cats track their owner’s presence from voices?
３．学会等名 Behaviour 2017（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Omori, M., Koster, M.,Itakura, S.,Kartener, J.
２．発表標題 Motor ability and social interaction skills enable infants to help
３．学会等名 Budapest CEU Conference on Cognition Development（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Furuhata, N., Sato, A., Itakura, S.
２．発表標題 Young children's coordination patterns of action timing in joint action game(
３．学会等名 Budapest CEU Conference on Cognition Development（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Ishikawa, M., Yoshimura, M., Sato, H.,Itakura, S.
２．発表標題 Gaze cuing affects the object choices in infants: I choose what you look at
３．学会等名 Budapest CEU Conference on Cognition Developmen（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 山本寛樹・佐藤徳・板倉昭二
２．発表標題 母子間の視線コミュニケーション空間の発達：歩行発達との関連から
３．学会等名 日本認知科学会　第34回大会
４．発表年 2017年

１．発表者名 池田彩夏・奥村優子・小林哲生・板倉昭二
２．発表標題 協力の負の側面：7 歳児における協働作業時のごまかし行為
３．学会等名 日本認知科学会　第34回大会
４．発表年 2017年

１．発表者名 Kishimoto R, Iwasaki S, Fujita K
２．発表標題 Capuchin monkeys' (Sapajus apella) memory strategies depends on delay length: using upcoming delay and their current memory state as memory controlling cue
３．学会等名 The 2nd International Symposium on the Science of Mental Time（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 石川光彦，板倉昭二
２．発表標題 乳児におけるGaze-Leader への選好：自己・他者・環境の三項関係の理解
３．学会等名 日本認知科学会　第34回大会
４．発表年 2017年

１．発表者名 Fujita, K., Yamada, Y., Chijiiwa, H., & Hori, Y.
２．発表標題 Do dogs recognize intention and goal of humans?
３．学会等名 The 5th Canine Science Forum（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 Fujita, K., Chijiiwa, H., Hori, Y., Kuroshima, H., & Anderson, J. R.
２．発表標題 Third-party affective evaluation of humans in domestic dogs (Canis familiaris)
３．学会等名 The 31st International Congress of Psychology（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 藤田和生
２．発表標題 モラルの起源－フサオマキザルとイヌに見られる社会性
３．学会等名 京都大学応用哲学・倫理学教育研究センター（CAPE）研究プロジェクト「人と動物の倫理研究会」第２回研究会講演（招待講演）
４．発表年 2016年

１．発表者名 板倉昭二
２．発表標題 視線理解の発達と進化：非言語　コミュニケーションとしての視線
３．学会等名 京都大学学術情報メディアセンターセミナー（招待講演）
４．発表年 2016年

１．発表者名 Itakura, S., & Okumura, Y.
２．発表標題 The cognitive studies of eye gaze
３．学会等名 The 31st International Congress of Psychology（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 Itakura, S.
２．発表標題 Developmental Cybernetics: Infant Perceptions of Nonhuman Agents
３．学会等名 The 31st International Congress of Psychology（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 Itakura, S., Imada, T., & Carlson, S.
２．発表標題 East-West Cultural Differences in Context-Sensitivity Are Evident in Early Childhood
３．学会等名 24th Biennial Meeting of the International Society for the Study of Behavioural Development（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 Itakura, S.
２．発表標題 Nonverbal theory of mind: Evidence in Japanese children
３．学会等名 DAVIDNORM Workshop（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 Hirata, S.
２．発表標題 Behavioral and cognitive study of captive bonobos at Kumamoto Sanctuary, Japan.
３．学会等名 Bonobo Communication Workshop（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 Hirata, S.
２．発表標題 Behavioral and cognitive study of captive bonobos at Kumamoto Sanctuary, Japan
３．学会等名 The 2016 AZA Annual Conference（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 Hirata, S.
２．発表標題 Chimpanzees at Kumamoto Sanctuary, Japan.
３．学会等名 Chimp Haven Special Seminar（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 Hirata, S.
２．発表標題 Chimpanzees recognize their own delayed self-image
３．学会等名 Joint meeting of the International Primatological Society and the American Society of Primatologists（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 Hirata, S.
２．発表標題 Welfare of ex-biomedical chimpanzees in Japan and the role of research at Kumamoto Sanctuary, Japan
３．学会等名 Chimpanzee in Context（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 Hirata, S. and Kano, F.
２．発表標題 Apes remember a movie story
３．学会等名 31st International Congress of Psychology（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 Hirata, S. and Myowa, M.
２．発表標題 Understanding about others’ action in chimpanzees and humans
３．学会等名 31st International Congress of Psychology（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 平田聡
２．発表標題 生物としてのヒトを考える－類人猿を通して学ぶヒトの心の進化的基盤
３．学会等名 日本生物教育会第71回全国大会熊本大会（招待講演）
４．発表年 2016年

１．発表者名 平田聡
２．発表標題 類人猿の行動とこころ
３．学会等名 教員のためのサイエンスカフェ（招待講演）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Tanaka, M.
２．発表標題 Serial learning in zoo primates －cognitive enrichment and exhibition of primate intelligence in Kyoto City Zoo－
３．学会等名 31st International Congress of Psychology（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 Tanaka M.
２．発表標題 Serial learning and working memory in an infant western gorilla (Gorilla gorilla)
３．学会等名 The XXVIth Congress of International Primatological Society（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 Tanaka, M., Nagao, M., & Mizuno, A.
２．発表標題 Serial learning of Arabic numerals and working memory in a captive infant western gorilla
３．学会等名 第76回日本動物心理学会大会
４．発表年 2016年

〔図書〕　計4件

１．著者名 髙木　佐保	４．発行年 2020年
２．出版社 岩波書店	５．総ページ数 124
３．書名 知りたい！ ネコごころ	

１．著者名 京都市動物園生き物・学び・研究センター	４．発行年 2020年
２．出版社 小さ子社	５．総ページ数 176
３．書名 いのちをつなぐ動物園	

１．著者名 藤田 和生、CAMP-NYAN	４．発行年 2018年
２．出版社 池田書店	５．総ページ数 192
３．書名 マンガでわかる　猫の心理学	

１．著者名 藤田和生（編著）	４．発行年 2017年
２．出版社 放送大学教育振興会	５．総ページ数 283
３．書名 比較認知科学	

〔産業財産権〕

〔その他〕

こころの自立性の獲得ー環境から解放された心の進化と発達ー
http://www.psy.bun.kyoto-u.ac.jp/kibanS_fujita2016/
こころの自立性の獲得ー環境から解放された心の進化と発達ー
http://www.psy.bun.kyoto-u.ac.jp/kibanS_fujita2016/
こころの自立性の獲得ー環境から解放された心の進化と発達ー
http://www.psy.bun.kyoto-u.ac.jp/kibanS_fujita2016/
こころの自立性の獲得－環境から解放された心の進化と発達－
http://www.psy.bun.kyoto-u.ac.jp/kibanS_fujita2016/

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	黒島　妃香 (Kuroshima Hika) (10536593)	京都大学・文学研究科・准教授 (14301)	

６．研究組織（つづき）

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	板倉　昭二 (Itakura Shoji) (50211735)	同志社大学・研究開発推進機構・教授 (34310)	
研究分担者	狩野　文浩 (Kano Fumihiro) (70739565)	京都大学・野生動物研究センター・特定准教授 (14301)	
研究分担者	田中　正之 (Tanaka Masayuki) (80280775)	京都市動物園・生き物・学び・研究センター・生き物・学び・研究センター長 (84315)	
研究分担者	平田　聡 (Hirata Satoshi) (80396225)	京都大学・野生動物研究センター・教授 (14301)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関